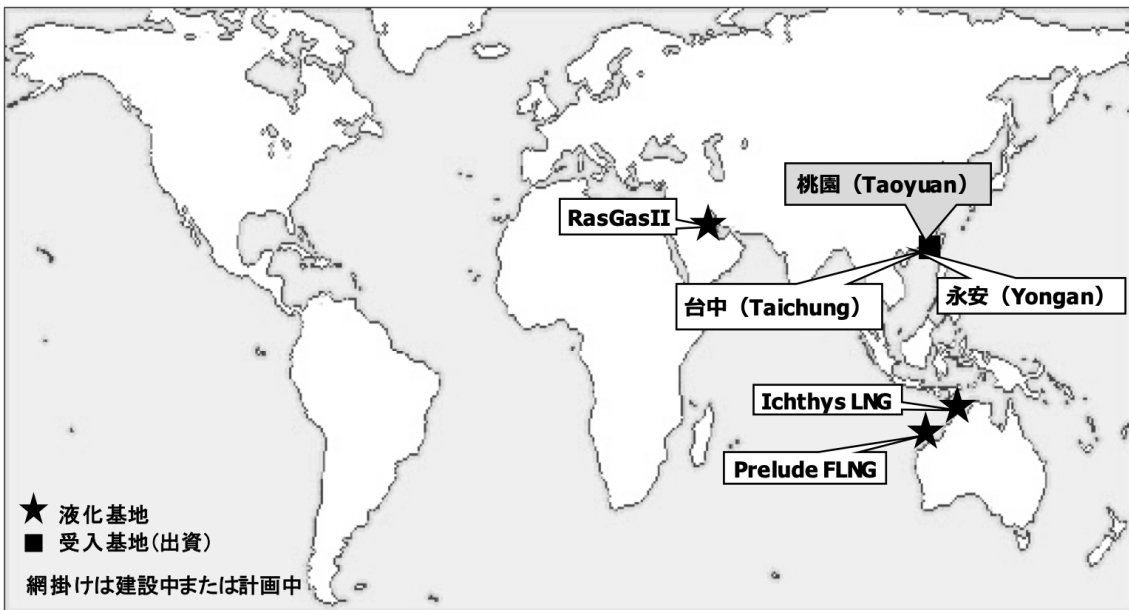


37. CPC

(1) 企業概要

CPC（台湾中油股份有限公司）は、石油・ガスの探査と生産、精製、石油化学製品の製造、販売を行う台湾の国営企業である。また、台湾で唯一の LNG 輸入業者かつ天然ガスの供給業者でもあり、低炭素エネルギー源にシフトを進める政府の方針をサポートするため、LNG タンクによる貯蔵容量拡大貯蔵施設やパイプラインの強化にも力を注いでいる。2019 年の国内の天然ガス販売量は 21.7 Bcm。また、2019 年には国内以外にも 6 カ国・8 ヶ所で石油・ガスの探査と生産を行っており、2019 年の天然ガスの生産量は国内 0.167 Bcm、国外 0.404 Bcm で、国内外合計の前年比は 91.6%増となっている。

CPC の LNG 液化・受入基地図



(2) LNG 関連

CPC は国内の天然ガスの安定供給を確保するため、LNG の供給源の多様化に力を注いできた。現在の供給元は中東、アジア太平洋地域、ロシア、オーストラリア、北米、中南米、アフリカ、ヨーロッパなど全世界にわたる。

2015 年 8 月には、LNG 調達や相互融通を目的とした戦略的相互協力に関する協定を東京ガスと締結している。その他、2017 年には Chevron、Sakhalin Energy、JERA と LNG 調達契約を締結、2018 年には Cheniere と相互協力に関する契約を結び、同年に長期契約を締結した。2018 年 11 月には、INPEX がオペレーターを務め、CPC が参画する Ichthys LNG プロジェクトからの LNG 受け入れを開始した。2019 年 5 月は、JERA とともに、Anadarko（当時）主導の Mozambique LNG 1 からの LNG の共同購入に関して売買契約を締結した。また、CPC は長期 LNG 調達契約に加え、中・短期/スポット取引により供給元を増やしてガス供給

IV. 主要企業別 LNG 事業動向

の安定と分散化を達成している。2019 年はマレーシア、カタール、パプアニューギニア、オーストラリアに加え、一部はロシアから LNG を輸入した。

台湾政府が進める脱原子力発電政策と温暖化ガス削減政策において、2025 年まで天然ガス火力は国内の発電量において 50%を占める計画となっている。これに伴い、CPC は積極的に国内の LNG 輸入・貯蔵容量の拡張に取り組んでいる。

国内で所有する 2 ヶ所の LNG 受入基地のうち 2 番目の台中 (Taichung) LNG 基地では、LNG 需要の増加に対応するために 16 万 m³ の LNG タンクを 3 基と再ガス設備を追加する建設工事を行った。また 2026 年には拡張の第 3 フェーズも計画されている。桃園 (Taoyuan) で計画していた国内 3 番目の LNG 基地建設は環境問題により台湾行政院環境保護署 (EPA) が作業中止を指示していたが、修正案が通り 2018 年 10 月に環境影響評価が承認された。CPC は、桃園 (Taoyuan) 基地を 2019 年中に着工しており、2022 年 10 月に操業開始する計画が示されている。同基地は大潭発電所にガスを供給するもので、前記の脱原発政策における電力の安定供給を保証する事業になると考えられている。なお、台湾電力も、CPC 以外で台湾初の LNG 受入基地となる台中 LNG 基地を 2023 年運転開始予定で建設中である。

CPC の LNG 契約

輸出国	プロジェクト	契約期間 (契約年数)	契約数量 (万トン/年)	受渡条件
マレーシア	MLNG (Complex)	2014-2020年 (6年)	260	DES
		2015-2021年 (6年)		N.A.
カタール	RasGas II T3-5	2008-2032年 (25年)	300	FOB
	RasGas III T6-7	2013-2033年 (20年)	150	DES
パプアニューギニア	PNG LNG	2014-2033年 (20年)	120	DES
オーストラリア	Ichthys LNG	2017-2031年 (15年)	175	DES
アメリカ	Cameron LNG	2018-2038年 (20年)	80	N.A.
ロシア	Sakhalin 2	2017-2022年 (5年)	75	DES
Mozambique Area1よりJERAと共同調達		稼働開始後 (17年間)	160	DES
Shell Eastern Trading による 複数の供給源 (ポートフォリオ契約)		2016-2036年 (20年)	200	DES
bp による複数の供給源 (ポートフォリオ契約)		2017-2022年 (5年+OP4年)	70	DES
Chevron による複数の供給源 (ポートフォリオ契約)		2017-2022年 (5年)	112	DES
JERA による複数の供給源 (ポートフォリオ契約)		2018-2021年 (3年)	30	DES
Cheniere Energy による 複数の供給源 (ポートフォリオ契約)		2021-2046年 (25年)	200	DES

CPC が出資する LNG プロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 (万吨/年)	生産開始	出資者	主要仕向地
カタール	RasGas II (Train 5)	470	2007年	Qatar Petroleum 65%, ExxonMobil 30%, CPC 5%	アジア
オーストラリア	Ichthys LNG	890	2018年	Ichthys LNG (INPEX 66.245%, Total 26%, CPC 2.625%, 東京ガス 1.575%, 大阪ガス 1.2%, 関西電力 1.2%, JERA 0.735%, 東邦ガス 0.42%)	
	Prelude FLNG (浮体式)	360	2018年	Shell 67.5%, INPEX 17.5%, KOGAS 10%, CPC 5%	

CPC が出資する受入基地

国名	基地名	出資者	受入能力 (万吨/年)	受入開始
台湾	永安(Yongan)	CPC	744	1990年
	<Phase 2> 拡張			1996年
	<Phase 3> 拡張			2002年
	<Phase 4> 拡張			計画中
	台中(Taichung)	CPC	300	2009年
	<Phase 2> 拡張		200	2019年
	<Phase 3> 拡張		100	2026年(計画中)
	桃園(Taoyuan)	CPC	300	2022年(計画中)
	<Phase 2> 拡張		300	(計画中)
	基隆(Keelung)/Offshore(FSRU)	CPC、Taipower	30	2025-2032年(計画中)
<Phase2> 陸上基地(2023年から FSRU→陸上基地に切り替 える計画)	N.A.		2032年(計画中)	

(3) 今後の戦略

CPCの今後の方針としては、台湾政府による原子力発電からの脱却及び低炭素社会の実現に向けた政策方針に対して、LNGの長期契約による安定供給を通じて貢献するとしている。また、世界的なエネルギー消費のトレンドである「低炭素、クリーンエネルギー、省エネルギー」にも対応するため更なる天然ガスの普及促進を図っていく方針である。具体的にはLNG供給元の多様化に積極的に取り組み、輸送・貯蔵施設を拡張して天然ガスの安定供給を図ることで、国内の需要増に対応していくとしている。同時に、政府の再生可能エネルギー政策に沿って、グリーンエネルギーの開発に努め、台湾電力と協力して地熱エネルギーの探査や生産にも取り組む方針である。